くまざさ

第 23 号
発行
釧路湖陵同窓会
発行日
平成3年3月3日
印刷所
綜合印刷 KK

創立八十周年・定時制七十周年並びに校舎改築落成記念事業に対する御礼

記念事業協賛会実行委員長
釧路湖陵高等学校PTA会長
妹尾継男

暖く穏やかな新春を迎えることができ、慶び合ったのも束の間、湾岸戦争の勃発等多難を思わせる平成三年の幕開けとなりました。

平素は湖陵高等学校並びにPTAに対し、格別なるご厚情とご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。

昨年は念願でありました新校舎が、全道一と自慢できる時計塔を正面に戴き、内には同窓生の作品を常時展示でき公立高校では全国的に珍しいと云われている湖陵ギャラリーを備え完成致しました。

九月二十日には旧校舎に感謝の念をこめたお別れ式を行い、只今は「霊峰阿寒右手に迎ぎ、轟く太平洋左手に御して」とある応援歌に相応しい、新しい湖陵が丘で、生徒は勉学にスポーツにと勤しんでおります。

これも偏に昭和五十七年から八年間に及ぶご支援を頂きました、湖陵高等学校々舎改築促進期成会を中心とする皆様のお蔭と心から感謝申し上げる次第であります。

校舎の改築が決まると、記念行事並びに記念事業を行いたいとの話が持ち上って参りました。私共が最も留意いたしました点は、既に計画されております湖陵同窓会々館建設運動との兼ね合いであります。ご寄付を仰ぐに当たり会館建設資金との違いをご理解頂く最善の方法として、長内宏湖陵同窓会々長様に協賛会々長をもお引き受け願ったわけであります。

協議の末、卒業生、在校生、父母などを頼りに一般企業、商社、個人を中心としてご協力をお願い致し、同窓会の組織は最後の砦として温存することになりました。結果として、広く浅くではなく、高額なお願いとなりましたのにも拘らず、気持良くご協力を賜りましたことに対し、心より厚く御礼を申し上げる次第であります。

九月二十九日に予定しております記念行事並びに事業に対しましても暖かいご支援をお願い申し上げますと共に、湖陵同窓会のご隆盛と会員の皆様方のご健勝を心よりご祈念申し上げまして、御礼のご挨拶とさせて頂きます。

新湖陵への変わらぬ母校愛を

学校長 森 正徳

平成の元号も三年目を迎え、私達の生活の中にすっかり定着した感じが致します。平成二年に待望久しかった新校舎が落成し、新湖陵のスタートがきられました。

ひぶな坂から見る新校舎は、春採湖から続くゆるやかなスロープの上にその白い偉容をきわだたせ校歌にある「湖陵にたてる我が学舎」が、そのまま自然のキャンパスにきりとられた感じがするとの評判をいただいております。湖陵ギャラリー、湖陵文庫と、他校にない文化施設を併設した、教養の香り高い新校舎では、日夜、熱気のこもった教育活動が続けられております。全道一の校舎に負けない全道一の生徒を育てようと、先生方も意欲にもえておりますし、生徒も、しっかりとこれを受けとめ、現三年生のセンターテストの結果も、全国で平均点が三十点程度前年より下回るなか、本校の下げ幅は十点程度でおさえられるという好成績で、国公立大合格者数が全道七位という昨年度を凌駕する勢いを示し、部活動も地区大会のほとんどが優勝、準優勝で占められ、「湖陵健児ここにあり」のこころいきを見る思いが致します。

こうした充実の時にこそ、思う存分の飛躍をとげて、新湖陵の永遠の伝統の第一歩を確固と刻みこむことが、私に与えられた責務と考え、まさに身のひきしまる思いが致します。

湖陵高校の新らたな幕明けを高らかに宣言する意味でも、本年九月二九日(日)の吉日をもって挙行することに決定しました開校八十周年記念式典並びに緑ヶ岡への校舎移転落成記念式典を成功させねばなりません。

一部残っております外構工事はそれまでにすべて完了、校門前の道路拡張工事も完成予定ですので、当日は、完成した新校舎の堂々たる姿を心ゆくまでご覧いただけるものと思います。

新しい出発にあたり、我児を愛しむ暖かい眼差しで母校を育ててこられた同窓生の皆様の変わらぬ母校愛を新湖陵にも賜りますことを心より祈念してやみません。

「校舎移転に伴う旧母校のお別れ記念行事」について

実行委員長　宮本英司

平成二年四月、同窓会役員会議の席上、長内、遠藤正副会長より提言され校舎お別れの記念を残したいとの事。数々の歴史を潜り抜けて来た諸先輩の校舎に対する愛執の念は、ずっしりと重味を感じさせるものがあった。

僕はたいへん重大な事を言い渡された様に思い、早速我々の仲間一七期に召集をかけた。幸い一七期は、日頃、親睦を計っているのでとまどいはあったものの結果は早い。諸先輩が応援してくれる事に勇気一〇〇倍。先輩の想いを消すな。同胞に伝えよう。大集会を開いて我々の思いを表現しよう。

（一七期というのはどうもこの様な状況下にならないと力を発揮しない特性があるらしい？）早速校舎お別れ会実行委員会を設立し一七期を中心に一二期から二二期の中堅有志を集め、第一回発起委員会を開いた。その数約三〇名、想い出話を中心に夢は盛り上がり、何とビールの捗る事。結果、全国的に前例が無い事への挑戦と、これを行う意義を感じ取る事が出来た。「ヤルゾ！」さてどうやるか。大きなイベントを行うには大きな事を考えよう。校舎に巨大なリボンをかける事はどう？感謝を表現して風船でつるそう。話しはそこから始まり、ファイヤーストームを囲みフォークダンスを踊ってみたい。グループサウンズのゴーゴーもいいね。名物先生の授業再現はどうか。落書を校舎に思いきり書いてみたい。種々な意見が出て、その中でも湖陵の備品をオークションでせり落す話に熱中した。

正門に備えてある大きな時計、イス、机、教室のプレート、古い地図・教材、etc。欲しい人がきっといるぞ…。ところで収益はどうするのか。同窓会館建設資金にしよう。では、もっと収益を上げる方法は無いのか。ムッムッム!!　頭の中が加熱して来た。釧中校舎の名ごりの武道館のゆか板をはがし、江戸時代の通行手型の様なものを作ろう。最高の名案だ。それを一枚千円で売る事にした。この発案は後に大成功をし、実に収益二〇〇万の売上げを上げた。皆んなの想いがこもった夢のあるユニークな発想は、仲間の集まりを楽しくさせ、さらに仲間を呼び、急速に輪が広がり始めた。我々は着実に一つ一つ実行に移して行った。先輩の投げかけた一つの言葉が、大きな輪になって動き始めた。何か途轍もない事に成りそうな予感がして来た。

この計画案は「大人の湖陵祭」として八月二十三日の同窓会に於て、満場一致で承認され、さらに我々は一枚千円の湖陵校舎お別れ記念の模擬チケットを販売し、この会場で祭典経費の充分過ぎる売上をし、この成功をゆるぎないものにさせた。後は当日、大勢人が集る事を願うだけであった。斯して一ヵ月後の九月二十三日、十時の祝砲の音で「大人の湖陵祭」の幕が切られた。風船のついた大きなリボンもかけられた。人が集まるか？不安も大きく募った。

仲間達で作られた模擬店の準備が整った昼頃には、かなりの同窓生が集まり始め、式典の始まる五時には黒山の人になった。長内会長の開会宣言と挨拶には、誰れもが同じ想いを馳せた事であろう。湖陵の、いや釧路の歴史を綴った巻物そのものの丹葉節郎先生の力強いリンカーン演説には皆んなが感動したにちがいない。懐かしいグループサウンズの生バンドが流れ始めファイヤーストームに火が放たれた頃には、長い歳月を消し、すっかり学生時代の顔にもどった仲間達がいた。ビールを組み交しお互を懐しみ語り合う友がいた。皆んな楽しそうだった。実行委員のメンバー達の目も充実感で生き生きしていた。夜もふけスクラムを組み応援歌や校歌を大声で歌った。炎に照らし出された友たちは、皆、笑顔の下に寂しさを漂よわせていた。先輩も後輩も誰れもが一つの心になった。この熱血と感動の輪を伝えたのは紛れも無くこの学舎である。本当にこの校舎がいとおしく、感謝を持って全員でお別れをしたのである。

感動という蓄積がどれ程人生を豊かにする事か。大人の湖陵祭に合せて、アメリカや全国から集まられた二期生の方々、この時亡くなった同期生の追悼法要を行ったと言う。同期独特の会報も見せていただいたり、私達に勇気と指針を与えていただいた。「誠・勇・愛」の湖陵魂を見て、を持って表現したこの感動と血潮の祭典は二度と再現しないだろう。しかし参加者全員の心のエネルギーとして、いつまでも燃え続けてゆく事と確信しています。

陰ながらご指導いただいた関口先輩、協力してくれた後輩、有難う。さらに僕らの無ぼうな計画を見守り、ご協力してくださった大勢の同胞達、無償で労働提供してくれた、美工堂阿部社長、長谷川鉄工社長、太平洋炭鉱、厚生社中山社長、ミスティサウンズグループ、森校長先生、並びに教育関係各位様に、より一層の信頼と感謝を申し上げる次第であります。

末尾にあたり今一つお願いがございます。一女史の提案により、こわされた校舎の後にひろいうけた正門玄関敷石のみかげ石がありますが、これを細くくだいて湖陵魂石なる守り袋を作製中です。これを今年度湖陵卒業生への記念品として同窓会よりプレゼントをしようと思っております。一般同窓生の皆様には、同窓会館設立建設資金として、配布する事になろうかと思いますが、その折はよろしくご協力の程お願い申し上げます。

皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げて、実行委員メンバー代表としてご挨拶に変えさせていただきます。

合掌

平成三年二月吉日

活躍する同窓生

このコーナーは、現在、各方面で活躍している同窓生にスポットを当て、寄せられた原稿をもとに紹介するものです。

昨年、体の大部分に熱傷を負った幼い隣人が、かつてない超法規的措置と優れた医療技術、そして、多くの人々の善意によって救われたことを思い出していただきたい。

ドクターヘリが病院の屋上に到着し、一刻を争うあの瞬間に我同窓生が活躍していたことをご存知の方は少ないであろう。

今回は、今注目を集めている救急医療の最前線で、まさに寝食を忘れて活躍している札幌医科大学付属病院救急集中治療部の医師、坂野晶司君から寄せられたものを紹介します。

十年経っても変わらないもの

坂野　晶司
（湖陵二三期　昭和五六年卒業）

今年で湖陵を卒業して早くも十年が経った。時代は昭和から平成へと変わり、湖陵のあの学舎もまた新たに生まれ変わったという。いま、卒業してからの十年を想い、十年前と、今の自分とを重ね「十年間」を辿ってみたい。

私が湖陵に入学したのは昭和五三年、入学してすぐ器楽部へ入った。器楽部の顧問は笠井泰治先生、生徒の自主性を何よりも重んじていた。当時は、今時こんなことをしたら、学校当局・父兄などから頻繁をかい、たちまち活動停止になるのではないかというほどの厳しい部で、部室に入っていきなり「うちは絶対に辞めれないからな」と当時の部長（現在は歯科医として活躍されている）に言われ、これは大変なことになったと思った。

練習は大変辛く、一日たりとも「退部」の事を考えない日は無く、同期の友達と家に帰るとき「どうしたら円満退部できるか」を話した。当時の器楽部には学校は休んでも練習は休まないと言う猛者が沢山居たので、腹筋のあまりの痛さに練習を休みたいが為に、学校をズル休みした事もあった。そうこうしているうちに二年になり、クラス替えで理系の十組、国語担当の吉川斎先生のクラスになった。

吉川先生は大変自由な教育方針を実践されていて、私のような不真面目な者は、調子に乗って欠席二割以内のギリギリの水準で出席を自己管理していて、当時流行しはじめていたテレビゲームのある喫茶店や千代の浦海岸で、午後過ごす事が多かった。しかし、そのことをおそらく知っていながら吉川先生は非常に寛大であり、しかもその大変な博識も相俟って、われわれ理系のクラスの中にあって存在感は非常に大きいものがあった。

相変わらず器楽部は運動部さながらの春採湖一周ランニングなど、ハードな練習を続けていたが、この年も、また三年の時も念願の吹奏楽コンクール全道大会出場は成らなかった。器楽部は一年のときは絶対途中で挫折するかと思ったが、いつのまにか卒業まで続ける事ができたのは素晴らしい顧問の先生、先輩・同輩・後輩達に恵まれたためである。

このようにして授業はサボリまくり、部活にばかり精を出していたので、成績は目を覆うばかりで古典・歴史を中心に成績表に赤い点数で書かれた字がたくさんあった。

現役の時の大学受験は当然のように失敗、しかも札幌予備学院の入試まで落ちた。しかし、捨てる神あれば拾う神あり、その年に札幌に進出した代々木ゼミナールの入試に滑り込む事ができた。愚直の一念（一年）で、翌年医大合格、極力学習時間の削減に努め社会勉強に励んだ為、しっかり一年留年し、時代も替わった平成元年三月医大卒業、外科の大学院の枠があった救急集中治療部に入局する事となり、現在に至っている。

昨年八月当院にソビエトの重症熱傷患者搬入となり、当救急集中治療部はマスコミに大いに取り沙汰されるように成った。その報道の中で、私の姿が映っていた事が当誌編集委員の先輩の目に止まり、いまこうして想いを綴ることになったのである。しかし、遺憾ながら私自身はあの熱傷小児の治療にはあまり関与していない。私の所属する救急集中治療部は主に外来救急患者、特に二次・三次の重症患者を扱う救急部門と、主に院内の超重症患者を収容する集中治療部門に分かれていて、ソ連の子供は集中治療部門に収容されたが、私は救急部門で主に研修を行っているためである。

先輩諸氏の中には「医者だから相当優雅な生活をしているに違いない」と思っている方もおられると思われるが、実態は駆け出しの私は、医者とは名ばかりの雑用に追われる事が多い。特に大学病院では雑用の量・質ともに膨大であり、ひと月に家で寝られるのは十日前後である。大学の当直は月に七回程度であるが、（昨年は月に十回以上大学の当直があった）その他にもなんだかんだと当直でも無いのに月に四、五回は大学に泊まるはめになる。しかも、大学院生は収入が皆無で（研究生ならば若干の診療謝礼金が支払われる）それどころか、大学に年間三〇万以上の授業料を払わなければならない。いまどき三〇歳に近い男が年中無休で働いて無給であるとはにわかに信じられないであろうが、全国の大学病院はこのような無給・薄給の医者の安価な労働力によって支えられているのである。

というわけで、いくら何でも、無給では暮らして行けないので、外の病院にアルバイトの当直に行くと、月の予定表の半分以上が当直のマークで埋まってしまうのである。

今の生活は確かに非常に辛い。自由な時間もないし、時間があれば眠る事が一番の幸せである。今いつも密かに考えている事は、もっと楽な仕事へのデューダ（転職）である。この想いは湖陵に入学して器楽部の過激な練習に辟易し、円満退部を毎日考えながら出世坂を下った、あの時の想いにどこか通じるものがある。高校時代はいつのまにか三年間貫徹してしまった。三〇歳に手が届こうとしている今、器楽部の合宿で後輩諸君の奮闘ぶりを見るにつけ、「この中に退部を考えている子はいるだろうか」と考えてしまう。十年経っても「これから何に成ろうか」と考えてしまうことが情けなく、少し可笑しい。

■事務局からのお願い■

このコーナーで紹介する同窓生を募集します。いま、第一線で活躍している方々の話題は、同級生はもちろん、学舎を同じくする者にとっての誇りです。情報を編集委員会までお知らせください。

青春譜・湖陵ケ丘《22》

釧中32期 奥田達也

名曲鑑賞など名目に
学生界のリーダーを自覚

男女交際

最近の湖陵高校へいって四割もの女生徒に威圧を感じる。「男女七歳にして席を同じゅうせず」を守らせられてきた戦時中の釧中生には羨ましい光景であり、異和感さえおぼえるのだ。

敗戦の結果、アメリカの占領下におかれ、男女同権となり、男女の交際が許されるようになった。

とはいうものの、学校では、依然として男と女が歩いているだけでも叱られる校則であった。

たとえ姉や妹とでも、であった。

青春の真盛りな年頃である。

男女生徒が交際したがる欲望を、なんとか満たそうと、戦後早々にいろいろの会組織が生まれた。

湖陵高（当時の釧中）生徒は、釧路市内の学生リーダーとしての矜持にもえている。古くは火事の手伝いにも卒先した。〝乃公出でずんば〟の心境である。会組織の発足に奔走し、核として活動する。

最初に誕生したのは、全国組織の「学生同盟」であった。祖国日本のために外地に出かけた人々が、敗戦で帰ってきた。出征した兵士もあれば、引揚げ者もいる。その人々も駅頭に出迎え、温かく迎え入れよう、と全国の学生、生徒たちは組織的に活動した。

釧路市内の釧中、工業、庁立高女、市立高女生らも一部の同志が集まり、団体として登録、全国各地の「学生同盟」と連絡をとり合って行動した。釧中の予科練帰り長谷川米一をリーダーに、男女学生がその活動をした。出迎え活動だけでは真の目標にならないため、旧医院跡の空室を借りて男子生徒が女学生に勉強を教えた。学徒動員の不勉強さはお互い同じ条件下であり、特別に男生徒が秀れていたわけではない。しかし男尊女卑の風習はなお残っており、先んじて学び、教える姿勢を保持した。実質的な効果は、秀れた同級生を講師がわりに呼んだことで恥をかかずに済んだ、と思われる。

引き揚げの終わる昭和二十一年まで「学生同盟」は活躍し、市民に好感をもたれたのは事実である。

ついで「釧路学生文化会」が創立された。文化の言葉が流行している時代、文化の名目で男女交際を計画したのである。個人的では大義名分が希薄なため、最上級生の級長達を発起人にしたて上げて学校へ許可を求めた。戦後の混乱期で校長をはじめ、教師達に明確な判定は下せない。好意的な教師達の賛成を、許可と受け取って、女学校へ堂々と勧誘へ出掛ける。

女学校の先生方も同様な反応の遅れに乗じ、女生徒の幹事方へ呼びかけて全校生徒を講堂へ集めて演説をぶったものである。

「教養を高める親睦会」はかくて誕生する。釧中以下四校から代表者一名ずつを選出し、その互選で会長を選んだのは、役員にこだわるより、男女交際が第一義であった雰囲気からである。

レコード・コンサート、読書会などレコードも本もない当時としては会員に喜ばれる。男女交際にうぶな生徒らは、同席できることだけで十分に満足した。

日帰りの摩周湖旅行は、高橋林一先生の監督のもと、学校の許可を得ての、楽しい青春の一日であった。貸し切りバスの遅れで貨車に飛び乗った騒ぎも良い思い出。

男女の学校での会合が回り順番で毎土曜の午後に開かれ、先生の好意も厚くなり、互いの演劇祭、学校祭には出かけて行くことも出来るようになった。

つぎに発足するのが「葺」の会で「釧路学生文化会」に反発をいだいた下級生が組織した。会報の発行など、内容は文化会と同じ。そのため会員の奪い合いもある。お互いが競い合い会則をもって会員募集に励み、両方へ加入の女学生さえできた。一期違いは、いつの時代でも反撥しあう。釧高一回生が卒業後は、同期生同士として仲良く手を組み「釧路学生葺クラブ」と「文化会」が東京進学の先輩らの「釧路学生会」ともども共催で「ショパンの夕べ」を開いた。

あたたかなふれあい
セオ
太陽のように
明るく暖かい真心で
良い品をより安く
ご奉仕する
セオチェーン

妹尾商店
新橋大通1丁目 ☎25－5345
新富士ストアー
新富士駅前 ☎51－3467
愛国ストアー
愛国西3丁目 ☎36－3399
白樺ストアー
白樺台1丁目 ☎91－5423
昭園ストアー
昭和北1丁目 ☎51－8853

さっぽろ地下街オーロラタウン
ギフトブティック
ペルソナ
オーロラプラザ前 ☎(011)241－3830

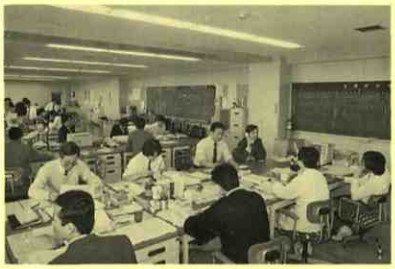
●味が自慢の本格派レストラン●
ステーキハウス アポロン
新橋大通1丁目妹尾商店向 ☎25－7023
営業時間／AM11:00～PM9:00

緑ケ岡に威容そびゆる
湖陵新校舎は如く在りき

我が母校は、昨年９月に緑ケ岡３丁目（旧道立病院向かい）に移転しました。素晴らしい教育環境の一端を紹介いたします。

◀四階建ての新校舎。高さ一〇メートルの時計塔は道内一。

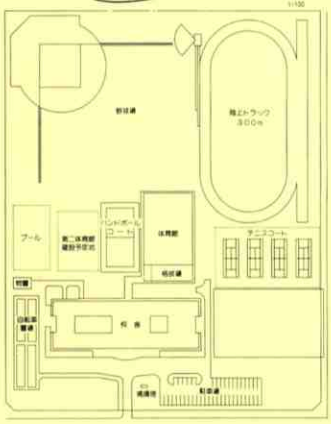
◀バルコニーでの語らいは最高廊下でたむろする伝統はいずこ。

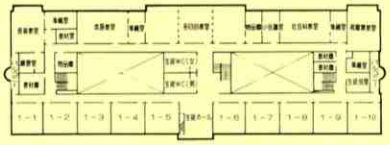


◀職員室は３年生の教室と同じ２階にあり、諸先生の意気込みがうかがえます。

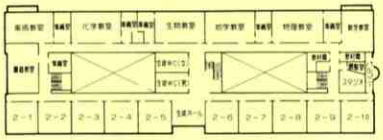
▲体育館は旧校舎の体育館と幾分似通った雰囲気です。

校舎・教室見取図

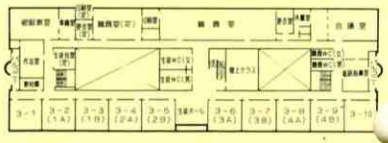




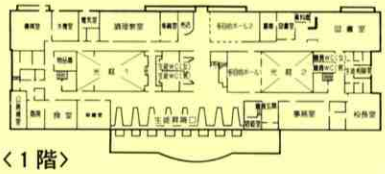
〈４階〉



〈３階〉



〈２階〉



〈１階〉

御婚礼・御宴会・御会合・御宿泊

政府登録国際観光ホテル・日本ホテル協会会員

釧路パシフィックホテル

れんが屋★AM11:00～PM11:00

トロイカ★AM 8:00～PM11:00

パシフィックイン・八まき・八宝園

中村　隆（釧中27期）

釧路市栄町2丁目6番地 ☎24-8811

学窓を巣立つ

濵田　渉

湖陵という名の灯台の燈に向かって、受験勉強していた頃から早三年。

入学した当初は、進学校という名の看板の通り、大学受験へまっしぐらというような感じを持ったものですが、それも日が経つにつれて、それだけではないことに気が付き始めました。最初は不慣れだった高校生活も、新しい友達ができてくると、学校に来る毎日が楽しいものとなり、授業も、無論、遙かに活気溢れるものとなりました（なりすぎという説もありますが……）。

冬ともなると、隙間風が吹く教室で、石炭ストーブを唯一の暖房として授業を受けた旧校舎。朝のうちはいいのですが、午後にもなるとストーブの火が弱まって冷えてきます。しかし、このような校舎でも思い入れは深く、いざ壊されるともなると、やはり寂しいものでした。

僕達は、この趣のあった旧校舎でも学ぶことができ、また、ほんの数ヶ月間ですが、新校舎でも過ごすことができました。新校舎に入ったときには、新たに入学したような気分でした。旧校舎にはなかった新しい設備が各所に備え付けられ、授業を行う教室は白で統一され快適なものとなりました。しかし、難点もいくつかあるようです（ある先生は、黒板のことを挙げていましたが……）。もっとも、校舎がいくら変わっても、その校舎を生かすも殺すも結局はそこで過ごす生徒次第です。ですから、これからこの校舎を使うことになる後輩達に期待したいものです。

実りのある三年間を、自由な気風（校風）のなかで過ごすことができたこと、力を合わせて頑張った数々の行事を通しての経験、親身になって努めてくれた先生方や何物にも代え難い友人達と知り合えたことは、僕の宝物です。

最後になりますが、僕達自身が、湖陵の歴史の一ページを綴ることができたなら幸いです。

市川なつめ

両手ではかかえきれないほど、たくさんの思い出が詰まった学窓。いよいよ巣立つ時が来ました。

終わってみればあっという間だった、と言う人もいるかもしれません。が、そうは言っても、「あっという間」の一言で終わらせてしまうのは、もったいないです。ですからここで、よーく、この三年間を思い出してみたいと思います。

振り返ってみると、何もかもが鮮明です。

入試は雛祭り。終了後、「お前ら、こんな日にかわいそうになあ。家帰って、風呂入って、一杯やれや。」なんて言った先生がいました。入学式では、校歌を聞いて、あの透き通る様な歌声に感動しました。歓迎会での、先輩方の仮装、紙吹雪、体育館中に鳴り響くドドドォーシィーッの音、に始まって、火事かと思わせる様なベルの音・一歩踏み出す度にミシミシ鳴る廊下・トイレ・雨もり・体育館を飛び回る鳩・しばしば爆発音をたてる石炭ストーブ……と、驚かされることも、たくさんありました。部活にも入り、毎日の厳しい練習と勉強を両立させることができるようになるまでには、なかなか時間がかかりました。クラスで統一したTシャツを着て、各競技に臨んだ体育祭。行灯行列を幕明けに始まる湖陵祭。これら二つの行事には、燃えに、燃えました。クラス、学年単位ではなく、学校全体が一つになる、という嬉びを知ることができました。友達と生活を共にした修学旅行。クラスの雰囲気も一段と良くなり、高校生活一番の思い出となりました。

これらの貴重な体験、経験を通し、良き先生方、そして多くの友達に出会うことができました。湖陵高校での思い出は、決して忘れることのない、大切な、大切な宝物です。これから生きていく中でこの三年間に学んだことは、きっと役立つことでしょう。

最後に、後輩達へ。

『新校舎になり、何をするにも今までと同じ様にしていく事は難しいと思います。しかし、先輩方が築き上げてきた伝統を崩さないよう、大切に守っていって下さい。そして、より充実した高校生活を送って下さい。』

釧路のおみやげに！

蝦夷手焼せんべい　熊ささ

しあわせをお菓子にのせて

サカエヤ

釧路市南大通2　☎代41-2121

「学園だより'90」・母校の活動

同窓生の皆さまいかがお過ごしですか。〝くまざさ〟二三号の発行にあたり、母校のこの一年を概略振り返ってみたいと思います。

〈四月〉

・新年度スタート。山本進、笈川晃一両教頭以下九名の新任教職員を迎える。

・入学式（9日、四四六名）。

・宿泊研修（19日～21日、一年生、川湯・御園ホテルにて）。

・同右研修会で上岡信明氏（釧中30期）、恒例の同窓生教育講演（20日、〝湖陵生に期待すること〟）。

〈五月〉

・春季高校野球支部予選の当番校業務（31日～9/2日）。

・高体連山岳当番業務（31日～9/2日）。

湖陵ギャラリー

〈六月〉

・教育実習（4日～16日、本校卒業生13名）。

・高体連弓道全道大会当番業務（18日～21日）。

・高体連全道大会に各部出場（陸上、サッカー、バレーボール、弓道、剣道、柔道、ハンドボール、バスケットボール、新体操、バドミントン、庭球など11部）。

・高野連夏季野球支部予選の当番校業務（25日～7/1日、本校は準決勝で惜敗）。

〈七月〉

・夏期進学講座（24日～8/4日、三年生対象、延べ五三一名参加）。

・放送局、NHK放送コンテスト全道大会に出場。

〈八月〉

・陸上部、高体連全国大会に出場（7/31日～5日、仙台市）。

・第四十回湖陵文化祭（24日～27日、旧校舎で最後となる）。

・国体道予選に各部出場（サッカー、剣道、柔道、卓球、陸上、バスケットボール、バドミントン）。

〈九月〉

・校舎お別れ式（19日）。

・校舎移転（21日～22日）。

・同窓生主催の校舎お別れ式（23日、〝大人の湖陵祭〟、オークション、記念手形発行、模擬店、ファイアストーム等盛況・湖陵12期～22期担当）。

・創立八十周年、移転改築記念事業のための募金活動開始（4日、同協賛会、目標額六、五〇〇万円）。同記念式典は九月二十九日と決定。記念誌（写真集）発行予定。

・選抜・選手権（通称新人戦）全道大会に各部出場（～一月まで、陸上、弓道、バスケットボール、バドミントン、ハンドボール）。

・合唱部、第四一回道合唱コンクールで優勝（全国大会へ）。

・高野連秋季支部予選（14日～16日、優勝、全道大会へ）。

「大人の湖陵祭」当日の校門

〈十月〉

・見学旅行（20日～26日、二年生、東京・京都・奈良方面へ）。

・野球部、第四三回秋季全道大会に出場（5日～10日、札幌市、一回戦対札南2－5で敗退）。

・高文連全道大会に各部参加（新聞、美術～最優秀二名、書道～最優秀～七名、図書、理科、考古学～優秀賞）。

〈十一月〉

・旧校舎解体及び整地完了（カラ松数本を残して）。

・合唱部、第四三回全日本コンクール出場（3日、札幌市、優良賞）。

〈十二月〉

・渡辺聖子さん、第二八回有島青少年文芸賞優秀賞を受賞（一年生、「方舟－ノアの記録」で）。

・湖陵ギャラリーオープン（15日、絵画15・書6・彫刻2・陶芸2・写真1、計24名26点で）。

・小杉陽子さん、フィギュアスケートで全道選手権3連覇・高体連優勝（一年生、高体連全国大会へ・富士吉田市、国体道代表）。

〈一月〉

・大学センターテスト（12・13日、三一四名受験予定）。

・ハンドボール部、第十四回選抜北・北海道大会で男女優勝（男子・10年連続11回目、女子、4回目、三月名古屋での全国大会へ）。

〈二月〉

・防災避難訓練（昭和28年2月22日初代校舎焼失を記念して毎年この時期に実施）。

・鹿内直先生（本校合唱部顧問）、釧路音楽協会・高後賞受賞（16日）

〈三月〉

・駒木根大輔くん、アジア・J・アイスホッケー選手権に代表派遣（二年生、2日～9日、中国吉林）。

・第四三回卒業式（10日、四三六名、卒業生総数二〇、〇三五名）。

以上、手短かな内容となりました。ご容赦下さい。今年度も校舎改築移転を中心に多忙な一年となりました。同窓生の皆さま、今後とも母校のため、後輩のためによろしくお願いいたします。

（文責・湖陵四期・和田信幸）

平成2年3月卒業生進路状況

	性別計	卒業者	就職希望者	進学希望者	合格者 大学 国立	公立	私立	計	準大学	短大	各種専修	合計	不合格（否不明）
2年3月卒	男	253	6	247	70	12	52	134	2	4	9	15	98
	女	169	10	159	35	4	34	73	0	48	17	65	21
	計	422	16	406	105	16	86	207	2	52	26	80	119
	%		3.8	96.2	24.9	2.8	20.4	49.1	0.5	12.3	6.2	19.0	28.2

「同窓会初体験顛末記」

根本　かずゑ

いかがでしたか、同窓会、一か八かの十八期の名に恥じぬ企画だった（？）との声もチラホラ、根がおっちょこちょいなのか、将又お祭り好きなのか、自分の能力を技量も考えず幹事をひきうけてしまった私。

錚々たるメンバーのいならぶ合同幹事会に出席し、アレッ・ドキッ・シマッタ！　でも、もうやるしかない（すごい開き直り）。

十七期幹事より懇切丁寧に前回の説明を受け、最早作業開始、例年通りは絶対イヤ。遠方より集われる方にも喜んでいただきたい。十八期らしいといわれるものをｅｔｃ…、アイデアは湯水の如く湧き出過ぎ、中でもゲームには議論白熱。内容は単純なジャンケン、参加者は花を一本買い、その売上金全てを賭けた壮大なるサバイバルジャンケン。三百人なら十五万、四百人なら二十万円。スゴーイ。でも、さすがにこれはボツ（現金ではなく賞品に変更）残念！

企画が決定するや、皆のなんとフットワークの良い事か。会券売り、寄付集め、テープの編集、土産品、テレカ、カメラの手配、花作り等々、種々雑多の作業を当日まで完璧に（？）こなしてしまったのです。さすが！

同窓会当日、お弁当もきれいに平らげ会場へ、汗だくになりながらの受付、そして私は花売りオバサン、一人でも多くゲームに参加していただきたい一心で「お花はいかが」。プログラムも高嶋氏の総合司会により滞りなく進行したらしく（花売りに忙しく見られなかった）アッという間にゲームの時間、一本ずつだった花が段々花束に、それにつられゲーム係の私もつい仕事口調で「さあ、ジャンケンするお友達は見つかったかなァ」たった一人の笑顔と三四九人のため息を残しゲームは無事終了、又来年の声と共に同窓会もお開きになったのです。

私には、懐かしの学舎を巣立ち、二十四年目、モチロン初めて参加の同窓会でありました。楽しかった。同窓生で良かった。ありがとう。

事務局だより

胸おどらせつつ待ち望んだ我が母校の新築移転も終わり、早くも半年が過ぎました。

校舎落成記念事業に、同窓会として貢献できましたことに満足しております。特に、協賛いただきました同窓生諸氏には、心より感謝申し上げます。

また、長年お世話をいただき、私たち同窓生の心のよりどころでもあった、想いで深い旧校舎との「お別れパーティー」開催は、今までにない多数の同窓生のご出席をいただき、盛大に挙行できましたこと、大変うれしく喜んでおります。

それぞれが、それぞれの想い出をこめてのお別れを味わいつつ、用意された数々のイベントで盛り上がった会場では、各期毎に、記念となる品々をアイデア豊かにご提供くださいましたことにつきましても、改めて同窓生の方々が母校を大切にしていたことに頭がさがります。

お世話をいただきました湖陵第十七期の諸氏に、心より「ご苦労様でした」と拍手とお礼の言葉を贈ります。

ご紹介します

旧校舎正面玄関の敷石（大理石）を加工して、素晴らしい記念品ができましたので、ご紹介いたします。写真でもお分かりの様に大小二通りのものがございます。

大型のものは、今年の八月に開催されます同窓会総会の時に、希望者にお分けいたします。数量に限りがございますので、早めにお申し出いただきたいと存じます。

小型のものは、平成二年度の湖陵高校卒業生全員に、同窓会よりの記念品として贈られます。

編集後期

暖冬で過ごしやすかった反面、支障が多かった今春だったのではないでしょうか。

「くまざさ」も陣容を新たにして、頑張っております。ご寄稿を歓迎いたします。

開校八十周年を記念して待望の同窓会館の建設も間近です。

（編集委員）長内　宏　遠藤隆吉　上岡信明　吉井　正　関口政司　平野清次郎　石川和男